

98%が「大学生活で成長」と回答 2014年度卒業生アンケート(上)

4年間の大学生活や就職活動、インターンシップなど幅広い分野で、「成長を自覚できたか」、「その理由は」などの聞き取りをする人文学部の2014年度の卒業生アンケート（2015年3月卒業）がまとまりました。興味深い結果がいくつかありましたので、皆さんにお知らせいたします。

アンケートは、昨年度より20人多い計360人の卒業生から得られました。

内訳は、人文コミュニケーション学科151人、社会科学科209人。



注目の大学生活を通じて「人間的に大きく成長できたか」の質問については、昨年度とほぼ同じ97.5%の351人が「成長できた」と回答しました。

内訳をみると、「成長した」(46.1%)、「大いに成長した」(31.4%)、「少しは成長した」(20.0%)となっています。反対に、「成長できなかった」の回答4人で全体の1.1%でした。

成長の原動力になった要因については、「ゼミ・授業の学生主体のグループワーク」がト



ップで17.7%、第2位が「アルバイト」(16.4%)、これに「部・サークル活動」(14.6%)、「卒業研究」(12.6%)などと続いています。教員にとっては、「卒業研究」が上位に食い込まず、4位に甘んじているこ

とが残念なところです。

専門科目への評価では、「充実感が残った授業」は、「5科目」(14.6%)が一番多く、2位は、「2科目」(14.3%)、「3科目」(13.7%)と続いています。「11科目以上」(3.5%)、「10科目」(12.0%)などという教員を喜ばせるような回答もありました。

「難しすぎて理解できなかった」科目では、「0科目」(26.7%)、「1科目」(17.2%)、「2科目」(12.5%)でした。専門科目への満足度は、「満足した」(37.5%)、「一応満足した」(50.6%)で全体の9割近くを占めました。



(学生委員会委員長の古賀)